

WELL通信

社会福祉法人
ウエル清光会



中面特集 / ウエルの今を深掘り!

「生きた」知識と技術を習得し 質の高い介護サービスへ繋げる

【8月のご当地メニュー】

月に一度、全国のご当地グルメから一品をセレクトしてご提供。いつもとは一味違うメニューにみなさんが喜ばれ、食欲も増すようです。8月は茨城県のご当地メニューを提供します。※写真は「いわしのつみれ汁」など千葉県のご当地メニュー



日々のお食事は、ウエル清光会のブログでも紹介しています。ぜひご覧ください。

厨房だより 美豊苑

越してください。



お正月やお花見など、イベント時には松花堂弁当風の器で特別感を演出。

家庭の味に、食欲が湧く工夫をプラス
美豊苑では、ご家族と食卓を囲んで食べてほしい出の味を考えたので、時には工夫を加えてプロの味で提供するご用意も、「介護施設じゃないみたい」と好評です。美味しく楽しくお食事をしていただけのように、毎回職員一同で頭をひねっています。ぜひ体験にお越しください。



美豊苑では、ご家族と食卓を囲んで食べてほしい出の味を考えたので、時には工夫を加えてプロの味で提供するご用意も、「介護施設じゃないみたい」と好評です。

事業所 PICK UP | グループホーム利倉清豊苑



季節を体で感じながら 穏やかな生活を送っていただく

グループホーム利倉清豊苑

大阪府豊中市利倉3-4-19 06-6210-6585 対応エリア:豊中市 定員:18名

『私たちがお迎えます!』(左から)管理者/本川裕之、ユニットリーダー/吉川明見、ケアマネージャー/西村美恵、ユニットリーダー/藤木珠実



テラスで育てた野菜を オープンキッチンで料理

グループホーム利倉清豊苑では、2つのユニットそれぞれにオープンキッチンを配備し、職員が調理したあたたかいお食事を提供しています。入居者様にお声がけをしながら、一緒に調理を行うことも。動作を体で覚えていってやるのか、手慣れた包丁さばきでお料理を楽しんでおられます。また、外部委託ではないので、慌てずに入居者様のペースでお食事ができ、家にいるような穏やかな時間が流れます。食材には、テラスや屋上の菜園で栽培した季節の野菜を用いることもあります。入居者様と職員と一緒に水やりをして育て、「今晚のご飯は何にする?」と会話を楽しみながら収穫した野菜だからこそ、お食事も一層美味しく召し上がっていただけます。



を眺めたりと、施設内にいながら外の空気に触れることもできます。不穏状態にある方も、のんびりと空を眺めているうちに落ち着いていくことがよくあります。また、調理や菜園の世話、時には洗濯物を干すとい

った日常の作業をお手伝いしていただくことでご自身の役割を感じていただくと同時に、自然と体を動かすことで身体機能を維持するためのリハビリにもつながっています。

介護度に応じて シームレスな支援を

利倉清豊苑の建物には、1階にデイサービスと小規模多機能型居宅介護、定期巡回サービス、2階、3階に特別養護老人ホームとショートステイ、4階にグループホームが併設されています。デイサービスを利用されていた方がグループホームへと移行し、その後介護度が進めば特養へと、お一人おひとりの生活をさまざまなサービスでサポートできます。内装は同じテイストのデザインで統一しているため、フロアが違ってもしリロケーションダメージが少なく、入居者様に安心して過ごしていただけます。また、情報をスムーズに引き継ぐことができ、適切なケアへとつながられることも大きなメリット。職員間で連携をとりながら、入居者様が安心して穏やかに生活できる環境づくりに努めています。

日常生活の中で 季節を感じて体を動かす

当ホームでは、日常生活の中に、心も体も健やかに過ごしていただく工夫を織り込んでいます。例えば、施設の外に散歩に出かけて気分転換をすることもあれば、テラスや屋上に出て季節の花と触れ合ったり、伊丹空港から飛び立つ飛行機

ウエルグループ

豊中市

- 清豊苑 [特]
- 利倉清豊苑 [地/テ/グ/小/定]
- 美豊苑 [特/ケ]
- 刀根山美豊苑 [地/テ]
- 輝豊苑 [テ/グ]
- ウエルケアプラセンター
- ウエリスト [小/テ]
- 社会福祉法人香聖会 宙豊中 [地/グ/小]
- 庵とよなか庄本 [有]

宝塚市

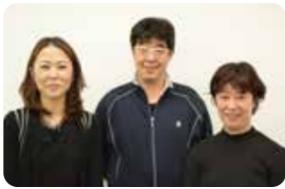
- 宝塚清光苑 [特/テ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- 陽光苑 [地/テ/グ]
- 西宮市
- バセム西宮 [有]
- ケアプラセンター西宮清光苑



[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [テ]デイサービス [グ]グループホーム [小]小規模多機能型居宅介護施設 [ケ]ケアプラセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス

「生きた」知識と技術を習得し 質の高い介護サービスへ繋げる

ウエル清光会では介護人材の教育に注力しており、豊中市にある教育施設「ウエルアカデミー」で資格を持たない職員や外部の一般の方に向けた研修を実施しています。講師を務める3人に、授業内容や教育にかける想いなどを話してもらいました。



ウエルアカデミー
統括責任者／高橋秀政(中)
社会福祉士・キャリアコンサルタント／小俣ひふみ(右)
介護福祉士／久田めぐみ(左)

経験や勤ではなく 根拠のあるケアを

Q どんなことを行っていますか？

高橋…新卒・中途の新人社員に向けて、法人の理念やマナー、接遇、介護技術などの基礎を学ぶ研修を行っています。特に大切にしているのが、理念の共有。当法人では、職員の大切な人が要介護状態になった時、自信を持って自分の施設を勧められる介護品質を目指しています。全ての職員がそこを目指せるように理念を共有し、みんなのベクトルの方向を合わせています。

小俣…また、高齢者の生活を支えるとはどういうことなのか、高齢者にはどんな特性があり、どんな病気があるのかといった知識と技術に加え、現場で必要とされる人間力についても基本に立ち返って学んでいます。

久田…介護技術に関しては、実践も交えて学びます。中途採用の方は特に、「前の職場でやっていたから」という考えでケアを行うことが多いのですが、ここで大切にしているのは、経験や勤ではなく「なぜするのか」という根拠を理解した上でケアすること。経験者でも改めて学ぶことで、「こういう意味だったのか」と新しい発見ができます。

Q どんな教材を使っていますか？

小俣…法人の理念に沿った内容を提供



マニュアルに沿って動画で介護技術を学べる「クリップライン」

確かなキャリアを築ける 体制を築きたい

Q 今後の目標は？

高橋…試験を実施し、レベルに応じてキャリアアップできる制度を確立させたいですね。意欲的な職員ならモチベーションアップに繋がりますし、逆に意欲が低い職員にとっては厳しい制度になりますが、高いサービス品質を維持するためには必要だと考えています。

久田…私は、知識や技術だけでなく介護の仕事の楽しさも伝えていきたいです。ここで学んだ人がそれを自分の後輩へと伝えて想いを繋ぎ、介護業界を盛り上げてほしいですね。

小俣…私は二人とは違うキャリアコンサルタントという立場から、職員のキャリアアッププランを提案したいと思っています。当法人では「仕事を通して成長する」ことを大切にしています。3年後、5年後、10年後にどんな自分になりたいのか、それをイメージするきっかけを一人ひとりにお伝えし、目標を導き出して職員の働きがいと成長をサポートしていきます。



事業所での新卒新入社員研修の様子



ウエルアカデミーでの中途新入社員研修風景

ら、その負担も軽減できていますね。それに、講師によって講義の質に差が出てしまうという問題も解決できず。

現場で培った経験を カリキュラムに組み込む

Q 特に力を入れていることは？

久田…認知症の授業に力を入れていきます。適切な対応を学ぶために授業時間を多めに確保し、前半の2時間で基礎について、後半の2時間で考え方について、私たちの経験を交えながら座学で教えています。

高橋…100人いれば対応の仕方も100通りあるのが認知症。イレギュラーなことばかりなので、細かな対応方法を教えるよりもまずは基礎知識を持つことが大切です。認知症とは何か、その原因疾患や認知症に伴う行動はどのようなものか。この基礎を把握しておけば、いざその場面にぶつかった時も利用者様のことを理解でき、柔軟に対応することができそうです。

Q 外部向けの研修も行っているのですか？

久田…はい。グループ企業で介護職員初任者研修と実務者研修を行っています

す。教える内容は教科書がベースですが、実際に現場に出てみると教科書通りにいかないことも多く、理想と現実のギャップの大きさに戸惑うことがあります。その違和感が、離職につながることも。私と高橋は介護現場で管理者を経験しているので、「こんな例もありますよ」とエピソードを交えることで、少しでもギャップを埋められるように心がけています。

小俣…優れた人材をたくさん育成し、介護業界が抱える人手不足の課題を解消して地域に貢献したいですね。

Q 教育によって現場に変化はありましたか？

高橋…指導のために施設を訪れた際に、職員の発言や行動を見て、人として成長していると感じる瞬間がありますね。また先ほど申し上げたように、プライドをリセットすることで職員同士や利用者様と職員の関係性が良くなり、施設全体の雰囲気も穏やかになってきたと感じます。結果的に利用者様同士の関係も良好になっていると思いますよ。逆に、成長が見られなければ私たちの伝え方にも改善が必要だということ。3人とも得意分野が違いますから、それぞれが課題を持ち、常に新しい学びに挑戦しています。